



小野 曜子

質問 1

学校給食無料化の意義は

町 保護者負担軽減の効果がある

問 無料化の意義について子育て環境の向上、若者・子育て世代の定住促進にとって重要と考えるか。

答 保護者の経済的負担の軽減化を図る意味で効果がある。

問 貧困対策、社会保障、義務教育費無償化への前進などの意義から、重要な施策であると考えるか。

答 貧困対策、社会保障については要保護・準要保護世帯に給食費の100%援助を行っている。原則として義務教育課程は無料になっていると捉えている。

問 給食の無料化は半額助成から始めて、子ども一人の世帯でも、無料化の恩恵がいきわたるように工夫する考えがあるか。



学校給食・給食調理の真っ最中

答 半額助成か、全額助成か検討している。「検討したが実施しない」という選択肢はない。手法、時期についてはもう少し時間が必要である。

し時間が必要である。

質問 5

除染土壌埋立実証事業は白紙に

町 白紙に戻す考えはない

問 実証事業の実施は町民の合意を得ていない。白紙撤回するべきでは。

答 現在の家庭敷地内保管の安全性を確認し、今後仮置き場へ集約するに当たり、安全性を町民に理解してもらうために必要であり、白紙に戻す考えはない。

問 事業実施は、地方自治体による、住民の合意なき除染土壌処理の悪しき前例、その道筋をつけてしまうことになると考えないか。

答 町民の不安を早く払拭するために事業に手を挙げた。伊王野山村広場をそのまま仮置き場にするということはない。



伊王野山村広場の旧中学校テニスコート

問 国に放射性汚染物の保管、処理方法を打ち立てるように町として求めることが最優先ではないか。

答 国の責任をうやむやにするつもりはない。しかし、町がこの事業を実施するのは町民の不安の払拭のためである。